

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援 小学部6年
教科・科目	日常生活の指導
題 材	朝の会をしよう
ねらい	タブレット端末を活用して、進んで朝の会の進行や係の活動ができる。 大型モニタの画面に注目させることで、自分がやるべき活動を理解させることができる。
I C T 環境 (授業で使用した機器)	タブレット端末 (2台) , 大型モニタ, 無線 LAN ルーター, AppleTV
利用したデジタル教材 (アプリ, サイトのアドレス, 資料など)	iPad アプリ 「Keynote」 , 「カメラ」
授業での I C T の活用方法 と手順	<ol style="list-style-type: none"> ① 事前にプレゼンテーションアプリ「Keynote」に朝の会の内容と、アニメーション、音声読み上げを作成しておく。 ② 授業時には AirPlay を利用して、大型モニタと iPad を接続し、日直の児童が Keynote を操作して朝の会の進行を行う。 ③ 児童が健康観察カードを提出したり、時間割表を使って説明したりするときには、その様子をカメラアプリで大型モニタに投影し、他の児童が様子を見られるようにする。 ④ 家庭の出来事を発表する時に、事前に家庭より預かった写真を大型モニタに投影する。
授業の工夫 (ポイント)	<p>Keynote のアプリに音声を入力しておき、発表することが困難な児童の補助として活用した。</p> <p>出席調べでは児童の顔写真を表示する際に効果音を付けたり、提示する順番を毎日変えたりすることで、児童に期待感をもたせた。</p> <p>発表では、事前に休み中の出来事の写真を保護者から預かることで、説明がイメージしやすくなるようにした。</p>
児童の様子	<p>音声読み上げ機能を使うことで、発表することが困難な児童が、画面をタップし、読み上げに合わせて言葉を出せるようになってきた。提示した物を集中して見ることが苦手だった児童が、画面に注目して、発言することが増えてきた。</p>

実践例

配当時間	学習の進め方	指導のポイント
導入 1分	始めの挨拶 ・タブレット端末を操作して、始めの挨拶をする。	・全員が画面に注目してから、司会の児童に操作するように促す。
展開 18分	出席調べ ・画面に現れる児童の名前を全員で呼ぶ。 ・出席人数を数える。 発表 ・発表したい児童は前に出て、説明をする。 健康観察 ・児童が健康観察カードを記入する。 ・日直が回収して、廊下へ持って行く。 日めくり ・カレンダーをめくり、今日の日付を発表する。 今日の予定 ・時間割ホワイトボードの予定を読む。	・児童の写真が出るときには、効果音を付け、大型モニタに注目できるようにする。 ・発表を補助する写真を大型モニタに映す。 ・カメラアプリで、児童が健康観察カードに記入する様子や、日直が廊下へ持って行く様子を撮影し、大型モニタで中継する。 ・一文字目を伝えることで、自分で言えるようにする。 ・日程を大型モニタに映し、注目できるようにする。
まとめ 1分	終わりの挨拶 ・タブレット端末を操作して、終わりの挨拶をする。	・全員が画面に注目してから、司会の児童に操作するように促す。

評価

児童について	児童の興味・関心	タブレット端末の操作や大型モニタに写した朝の会の映像に興味をもち、意欲的に授業に参加することができた。
	児童の理解	大型モニタの画面を見て、学習内容を理解して活動をすることができた。
	児童の情報機器の活用度	タブレット端末の画面をタップして、朝の会の進行をする。
授業について	事前準備の難易度	Keynote の操作方法が理解できていれば容易に教材は作成できる。
	指導者にとっての授業展開の難易度	実態の異なる児童一人一人に合った支援を考えることに苦労した。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	タブレット端末の活用については達成できたが、集中して見るための工夫については、改善の余地がある。
	効果的な指導方法であったか	大型モニタに自分の写真を表示したり、音を出したりすることで、注目させることができ、効果的であった。
<実践の感想及び反省点等> 司会の児童は、タブレット端末を操作して、会の進行ができ、読み上げのタイミングに合わせて声を出す場面も増えてきた。司会以外の児童は、自分の映っていない場面では見ていないことがあり、研究授業後に、タブレット端末のみで授業を行ったところ、画面を追って見ることができていた。今後も、提示の仕方を改善して、児童がより興味をもって活動に取り組めるようにしていきたい。		